



私たちは教師であり、案内役であり、先駆者である。

沖縄県立総合教育センター
教職研修総括 島田 純

私が英米文学専攻の学生時代から愛読している Scott Fitzgerald の “ The Great Gatsby ” 『華麗なるギャツビー』は、日本語での翻訳本も多く、何度も映画化されているのでご存じの方も多いだろう。第1章のキャラウエイの回想で次の一文がある。“ I was a guide, a pathfinder, an original settler.” 「ぼくは案内役であり、先駆者であり、先住民だった。」先駆者の意 pathfinder (パスファインダー) は文字通り Path (道・方向) を Finder (見つける者・探す者) から「先駆者・草分け・開拓者」の意味となる。この意味ではパイオニア (pioneer) が馴染み深いかもしれない。学生時代その単語を辞書でひいて以来 “ pathfinder ” という響き、字面が好きである。茨の道をかき分け、がむしゃらに進んでいく者の努力する姿をイメージするからである。非常に個人的な見方ではあるが・・・「先駆者・草分け」は現在から過去を振り返り、その業績が評価されて初めて、言葉の持つ意味がその人に付与される。しかし、私は本総合教育センターの指導 (研究) 主事たちが様々な研修や研究に対峙する姿を見るとき、「パスファインダー」という単語が頭に浮かぶ。彼等の真摯に向き合う姿をみて賞賛と期待を込めた感情がこの言葉にリンクするのもかもしれない。

昨年度のプロジェクト研究では、キャリア教育の在り方をテーマに調査研究を行った。研究の焦点化を図る中でたどり着いたのが、授業改善の重要性を述べる事であった。つまり教師がキャリア教育の明確な視点をもって意図的に授業を計画・実施する事で、その本質が児童生徒に育まれる事に繋がるとした。そこで強調したのは、「新しい取組」をするということではなく、「普段行っている事」への価値付けを行う事から始めてみようであった。価値付けるためにはその根拠となる理論と実践例が必要となり、全校種の実態把握 (アンケート) と県のキャリア教育の基本方針をベースに理論研究を、研究協力校では実践事例の研究を行った。研究を通して主事たちが心がけたのは、学校での教員の困り感を肌で感じ、その課題解決に寄り添うことであった。その姿勢が随所に感じられた。

コロナ禍の中、法定研修・職務研修・出前・依頼研修等の様々な研修が実施形態の変更を余儀なくされている。本年度も状況に応じて、それぞれの研修目的と育成指標を勘案し、文部科学省の言うところのベストミックスを検討し、所長へ進言している。調整の中で、所長からは変化に適応する事、本県の教育施策を推進する立場から、教育実践の専門機関としての役割、研修を実施する事の責務について激励や助言、精神面で心強い大きな後ろ盾を頂いている。

慣れないオンライン研修に苦戦し、付随する様々な課題を一つずつ克服し、挑戦を続ける主事たちの奮闘する姿を見ると「パスファインダー」という単語が再び浮かんできた。授業の成否は教員の資質に負うところが大きいと言われる。我々はその教員の学び (研修) を支援する責務を負っており、提供する様々な研修は、教員の資質の向上を促進し、ひいては本県の児童生徒の「生きる力」に結実すると考える。

“ We are teachers, guides, pathfinders.” 「私たちは教師であり、案内役であり、先駆者である。」という気概を持って日々の研修・研究にこれからも取り組んでいきたい。それが、学校現場に寄り添う、学び続ける教員を支援する本総合教育センターの使命に繋がるのだから。指導 (研究) 主事たちの奮闘する姿を、ヨーヨーマの奏でる「リベルタンゴ」の調べに重ね、日々、私は彼等に声援を送っている。

***** もくじ *****

● 巻頭言 「私たちは教師であり、案内役であり、先駆者である。」	教職研修総括 島田 純 - 1
● 調査研究事業について ～統一テーマ「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」～	他 -教科研修班- - 2
● 特別講演会「グローバル化が急速に進む沖縄経済と産業人材教育のあり方」	他 -教育経営研修班- - 3
● 小学校の先生方の実践力・指導力向上をサポート!	他 -理科研研修班- - 4
● 自主講座開催	他 -特別支援教育班- - 5
● 移動式ロボット (ロボティクス) 他	-産業教育班- - 6
● GIGAスクール構想の実現	他 -IT 教育班- - 7
● 令和3年度 前期・離島長期研修研究報告会	他 -教科研修班、理科研研修班、特別支援教育班- - 8

調査研究事業について ～統一テーマ「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」～

本総合教育センターでは、本県の学校教育の課題解決へ向けて調査研究を行い、毎年度 2 月第 1 土曜日に研究発表会を開催しております。取り組み内容としましては、各班から選出されたメンバーでチームを編成し研究に取り組む「プロジェクト研究」、個人や共同で教育課題を設定し研究を行う「個人・共同研究」があります。

今年度の「プロジェクト研究」では、本県が示した「沖縄県キャリア教育の基本方針」に基づいてキャリア教育の視点から授業改善に取り組んでおり、義務教育課、県立学校教育課とも連携しながら研究を進めているところです。また、「個人・共同研究」における教科研修班の研究内容は、以下のとおりとなっています。令和 4 年 2 月 5 日（土）に開催します研究発表会への多くの御参加をお待ちしています。

種 別	テーマ
プロジェクト研究	一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方 ーカリキュラム・マネジメントの視点を通して（2 年目）ー

教育講演会

調査研究事業の一環として、本県の今日的な教育課題解決へ向けて、年 4 回の教育講演会を実施しています。

今年度は、教育相談、キャリア教育の分野において第 1 人者としてご活躍中の先生方をお招きし、御講演していただく予定となっております。児童・生徒理解や授業改善の方向性について、多くの示唆がいただける貴重な機会となるでしょう。

今後、実施を予定している教育講演会は、以下のとおりとなっています。申し込み方法は、各学校に届くチラシ、または、本総合教育センター Web ページを御参照ください。多くの御参加をお待ちしています。

期 日	講 師	主な内容
（予定） 令和 3 年 9 / 28 (火)	こども若者未来相談プラザ Sorae 総括責任者 松本 大進 氏	（予定）支援を要する生徒への対応
（予定） 令和 3 年 12 / 14 (火)	FR 教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏	（予定）学校心理学
（予定） 令和 4 年 2 / 5 (土)	筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 氏	（予定）キャリア教育

※県内の新型コロナウイルス感染症に係る状況等を踏まえ、開催方法につきましては検討しておりますが、延期もしくは中止になる場合もあります。実施については、本総合教育センター Web ページで御確認ください。

特別講演会「グローバル化が急速に進む沖縄経済と産業人材教育のあり方」

令和 3 年 6 月 7 日、本総合教育センター I T 教育棟大講義室にて、令和 3 年度第 1 回特別講演会が行われました。

本講演会は、「明日を担う児童・生徒の教育に携わる教育関係者が、豊富な経験及び実践に基づいた講話を拝聴することで、今後の教育方策等に資する機会とする」ことを目的として長期研修員及び所員を対象に実施しており、今回はブルームーンパートナーズ株式会社代表取締役の伊波貢様を講師にお迎えしました。

演題は、『グローバル化が急速に進む沖縄経済と産業人材教育のあり方』と題し、沖縄のおかれている現状や将来を見据えた人材の育成について講演をして頂きました。

研修員は、児童・生徒のキャリア教育や産業教育の視点で、それぞれの教育実践に繋げる思いを持ちながら真剣な表情で講師の伊波先生のお話を聞いていました。講演後の感想では、「普段の教育活動の中で、『夢を持つこと』については授業などで実践していると感じますが、『世界と戦う』ことや『グローバルリーダーを育てる』ことについて考えたことは、ほとんど無かったので、学びの多い講演でした。」「今回の講演で、沖縄の未来を見据えたビジョンを掲げながら人材を育成していくこと、そして、そのためには世界を知ることの大切さを学びました。」「夢という炎を灯すという言葉に感銘を受けた。小学校でのキャリア教育の在り方を見つめ直すいい機会となった。」とあり、満足度の高い講演会となりました。



特別講演会の様子

子どもの心を理解する保護者交流会

子どもの心を理解する保護者交流会は、適応指導教室に通級する児童生徒の保護者や不登校児童生徒の保護者がお互いに情報を交換し交流を深める場を提供するとともに、講話等をとおして子どもの心を理解し、具体的な支援についてともに考える機会としています。

今後の実施予定は以下のとおりとなっています。お知らせ・申込み方法等については、各学校から保護者へ配布することになりますが、新型コロナウイルス感染症拡大等により、日程等の変更がある場合があります。本総合教育センターの Web ページで確認してください。多くの御参加をお待ちしています。

令和 3 年度 子どもの心を理解する保護者交流会 (日程予定)		
第 2 回	日 時	令和 3 年 9 月 26 日 (日) 13 時 30 分～15 時 30 分
	場 所	県立総合教育センター 多目的研修棟 講堂
	講 師	琉球大学人文社会学部人間社会学科 准教授 草野 智洋
第 3 回	日 時	令和 3 年 12 月 12 日 (日) 13 時 30 分～15 時 30 分
	場 所	県立総合教育センター 多目的研修棟 講堂
	講 師	北谷町教育委員会 S S W 臨床心理士・公認心理師 仲村 将義

小学校の先生方の実践力・指導力向上をサポート！ ～「小学校理科自主講座」～

理科研修班では、小学校の理科専科を担当することになった先生方を対象に実践的指導力向上を目的とした自主講座を開講しています。物理・化学・生物・地学の4分野の主事が在籍しているのは、総合教育センターとして全国的にも数カ所しかなく、理科の見方・考え方、実験・実習、観察指導の方法など各分野における専門的見地からの授業づくり支援を行っています。昨年度より働き方改革を考慮し、研修時間を15:00～16:45と勤務時間内での実施を行っていますが、毎回多くの申込みを頂いております。

第1回目は生命分野「動物の誕生(小5)」を4月23日(金)に実施しました。メダカをイメージして描き、その後観察・スケッチを行い、観察の前後の変容からの「観る」という視点での気づきや主体的な学びについて体感してもらいました。またミナミメダカ「琉球型」を通して生態系について考える活動などを行いました。学習評価に関することや日々の授業に関する情報交換なども行われ、とても有意義な講座となりました。

第2回目は地球分野「月と星(小4)」「天気の変化(小5)」を5月18日(火)に実施しました。月食のしくみや地球・月・太陽の関係や大きさの比較、位置関係などについての講義の後、身近な材料を用いての太陽・地球・月の動きと月の見え方のわかる模型作りを行いました。また気象庁のホームページ活用の紹介やプラネタリウムの見学も行われ、とても充実した内容となりました。参加した先生方からは、「実際に活用できる教材を作製でき、とても良かった」などの感想を頂きました。

第3回目の7月のエネルギー分野「風とゴムの働き(小3)」「電流の働き(小4)」は、緊急事態宣言の期間延長のため、集合での講座は中止とし、オンデマンドによる資料提供を行いました。



メダカの観察



教材作製

皆既月食 ～大型天体望遠鏡による観察～

2021年5月26日(水)は天候に恵まれ、本総合教育センターでも皆既月食を観測することができました。今回の皆既月食は、24年ぶりにスーパームーンと重なったことでも話題になりました。一般的に、地球と月の距離が最も近い満月をスーパームーンと呼んでおり、最も遠い距離の満月と比べて約14%も大きく見えます。

皆既月食は、月が地球の影(本影)ですっぽり覆われる現象です。皆既食中の月は、太陽からわずかに届く赤色の光に照らされて赤銅色に見えるのが特徴です。26日の夜は、19:07頃に部分食の状態から東の空から月がのぼり、時間とともに形と色が変わっていききました。20:09頃から約20分間、皆既食中の赤い月が夜空に浮かび、幻想的でした。その後、約85分をかけて明るく輝く満月へと戻り、それを待っていたかのように夜空が雲で覆われていきました。

6月に予定されていた親子星空教室①②は緊急事態宣言の延長に伴い中止となりましたが、次回は11月26日(金)・27日(土)に予定されています。詳しくは本総合教育センターのWebページを御確認ください。また、11月19日(金)には部分月食が観られます。11月にはコロナウイルスの感染拡大が収まり、親子星空教室が開催できるようにと願っています。



5/26 20:18 (最大食)



5/26 20:46



5/26 21:22



5/26 21:51

自主講座開催 ～知的障害特別支援学校における自立活動の充実を目指して～

昨年度の共同研究において、本県の知的障害特別支援学校における自立活動に関する実態調査を実施し、課題の把握と今後の支援の在り方を考察しました。調査から見てきた課題として、的確な実態把握につながるツールの活用、根拠を踏まえた目標・内容の設定、個別の指導計画の作成と活用のあり方、評価の在り方、それに伴う自立活動に関する研修の実施などがあげられ、特に継続した指導の実施のため、実態把握から指導目標・内容の設定に至るまでのプロセス（指導の根拠）の共有が重要であることが分かりました。そのことから個別の指導計画作成のポイントや、学習上又は生活上の困難の改善・克服という目的を踏まえた評価のあり方について、自立活動に関する自主講座を開催していくことになりました。課題にあがっている実態把握から指導目標・内容の設定に至るまでのプロセス（指導の根拠）に沿った指導計画の立案について、演習を通して研修し、教員がどのような視点で実態把握や指導目標・内容の設定をしたか、どの部分で難しさを感じるかを共有し、指導計画の立案に必要な視点やツールについて意見交換を図っているところです。第1回は5校の知的特別支援学校から11名の先生方が参加し「自立活動の概要」「知的障害児の特性」「子どもの実態把握」について確認と、各学校の取り組みや課題についての協議を行いました。有効なアセスメントの方法などの意見交換や情報提供がありました。今後も現場のニーズを捉えながら知的障害特別支援学校における自立活動の充実を目指す自主講座を開催していきます。

時期	内容
第1回 6月	自立活動とは (障害の捉え方と自立活動の意義)
第2回 8月	自立活動の指導計画作成①(実態把握)
第3回 10月	自立活動の指導計画作成② (指導すべき課題の整理)
第4回 12月	自立活動の指導計画作成③ (指導目標と指導内容)
第5回 2月	自立活動の指導の実際と評価



第1回（6月24日開催）

学びを止めない出前研修 ～更なる特別支援教育の理解と推進に向けて～

昨年度はコロナ禍の混乱で出前研修の実施が難しい状況でしたが、今年度は特別支援教育班全主事体制で実施形態を工夫し出前研修を行っております。研修の依頼テーマは「障害特性（発達障害を含む）の理解、支援の在り方」「教育課程・授業づくり」「インクルーシブ教育システムの構築について」「保護者支援・支援体制づくり」「特別支援教育実践研修」などニーズが高く、各学校の事例を踏まえて研修を行うことで「特別支援教育について勉強になった」「子どもの理解や支援を深めていきたい」という感想も得ることができました。また、研修形態については、先生方と直接顔を合わせられる訪問研修の良さも実感する一方、苦戦しながらも、IT教育班と連携しながらオンライン研修のメリットや主事自身の成長を感じることも増えてきました。オンライン研修では、①双方向型テレビ会議システムによるライブ配信（Zoom、Teams）②研修内容を動画に収めたオンデマンド配信を行っています。緊急事態宣言下においても、教師の学びを保障したいというセンターの思い、幼児児童生徒のために学びたいという、各学校の思いをつなぐ形として、学校とセンター双方の試行錯誤を経ながらオンライン研修の実施に至っています。今後も“志高く”をモットーに「どうしたらできるか」という実施方法の工夫、「学校・先生方・子どもたちのニーズ」を捉え、学校に寄り添いながら特別支援教育の更なる連携に向けて「学びを止めない出前研修」にチーム一丸となって取り組んで参ります。



ライブ配信による出前研修

移動式ロボット（ロボティーンノ）

ロボット技術は、機械的要素を電子的要素で制御する仕組みと、ロボットの動きをソフトウェアで指示することで高い付加価値と機能を実現する技術です。特に、移動式ロボットは、工場の中で人に代わって安全かつ効率的に指定された場所に物を運び配置したり、室内の掃除を自動的に行うなど、身近な存在となっています。また、開発が進む、自動車の自動運転技術も移動式ロボットの技術が応用されています。今後、人に代わって作業するロボットや日常生活の中で人と共存するロボットが増え、それに伴いロボットに関わる技術者の活躍の場も拡大していくことでしょう。

産業教育班では、先端技術を活用した夏期短期研修講座、生徒実習、施設見学等学校現場のニーズに応じた講座を開設しています。今後も学校現場に即したニーズに応えられるように支援していきます。また、各種競技大会に即した専門家を招いての産業教育支援講座を実施しています。これから新しい技術を身に付けたい先生方の目的に合ったプログラムにも取り組みます。

※ロボティーンノとは、カメラで物体の色を認識し、追従することや各種センサで物体を感知することにより障害物の回避や所定の場所へ移動することができます。



競技用ロボティーンノ 2



ロボティーンノ 2

産業教育支援講座

～計測制御（MyRIO）におけるプログラム作成と操作に関する技術講座～

産業教育班では、産業教育棟の施設・設備を活用して専門高校教職員（農業・工業・商業）の知識・技術の向上に資する目的で産業教育支援講座を開催しています。今回は、愛媛県で行われる若年者ものづくり競技大会「ロボットソフト組込み」部門に参加またはこれから競技に取り組む教職員を対象に 7 月 25 日（日）に講座を実施しました。講師は、株式会社アフレルの春木賢仁さんで、内容は、主に①プログラムの作成と実行等②各種センサを使用した制御③カメラによる文字認識④競技課題でした。

受講された教職員の方々は生徒の育成のために今回の講座で学んだ知識・技術を活かし若年者ものづくり競技大会に臨んで欲しいと思います。また、毎年、沖縄県チームは若年者ものづくり競技大会で好成績を残し、技能五輪全国大会にも出場を果たしています。是非、今年も技能五輪に出場できる生徒の育成に努めてください。

※若年者ものづくり競技大会は、職業能力開発施設、工業高等学校等において技能を習得中の若年者（原則 20 歳以下）であり、企業等に就業していない者を対象に、技能競技を通じ、これら若者に目標を付与し、技能を向上させることにより就業促進を図り、併せて若年技能者の裾野の拡大を図る大会です。



講座の様子①



講座の様子②

G I G A スクール構想の実現 ～ ICT を活用した業務改善・授業改善を通して ～

IT 教育班では、令和 3 年度の共同研究において、教育庁義務教育課と連携し本県小中学校 8,743 名の教職員に配布した教育庁義務教育課 Open アカウント（以下 Open アカウント）を活用して「教師同士がつながる」「教師と生徒がつながる」「教師と家庭がつながる」を目指した業務改善と授業改善について研究を進めています。業務改善については、職員会議等において資料のペーパーレス化や Microsoft Teams を効果的に活用した教師間連携、Microsoft Teams と Microsoft Forms を連携させた欠席届システムの活用などについての研究を進めています。会議資料のペーパーレス化により会議内容の確認がスムーズになり、情報や資料の共有、日程の確認・調整もスマホとの連携で簡単に行うことができる環境の構築を目指しています。また、欠席届のシステム化により、毎朝保護者からの電話連絡による対応が減り、保護者からの相談に、丁寧に対応できる時間を確保することを目指しています。

授業改善については、今年度、下表にあるように小学校 6 回、中学校 2 回、計 8 回の公開授業を予定しています。現在多くの参加申し込みを受けており県内の多くの先生方の注目を集めています。

期日	教科	授業校	内容
7/2	外国語科	読谷村立渡慶次小学校	iPad による Seesaw の活用を通して
7/8	算数科	西原町立西原東小学校	Windows タブレットと Teams の活用
9/16	国語科	那覇市立若狭小学校	アナログとデジタルのベストマッチ
10/8	理科	読谷村立古堅小学校	iPad によるロイロノートの活用を通して
10/15	数学科	うるま市立与勝中学校	Web アプリ Quizizz の活用を通して
10/29	算数科	糸満市立光洋小学校	Chromebook で Classroom を活用
11/ 4	社会科	与那原町立与那原中学校	スプレッドシートやスライド等の活用
11/17	プログラミング	名護市立安和小学校	教科の学びを豊かにする取り組み

本研究は、誰一人取り残さない公正に個別最適化された学びの実現を目指し進められています。

県立高校での Microsoft365 を活用した業務改善の事例紹介 ～ 教師が生徒と関わる時間を創り出す取り組み ～

文部科学省では、「新しい仕事の仕方・働き方改革の検討に関するタスクフォース」を設置し報告書にまとめています。現在の学校で大きな課題は、教師が生徒と関わる時間を創り出すことであり、IT 教育班では平成 15 年度より校務支援システムの導入、平成 28 年度から Microsoft365 (以下、M365) 等クラウドサービスの提供など、これまでも学校現場の業務改善に取り組んでいます。今回の新型コロナをきっかけとし ICT の活用が加速化しており、本県の県立学校において、これまでの前例踏襲や慣例にとらわれず「新しい仕事・働き方改革」の視点にたち、M365 を利活用した業務改善を推し進めている学校があり、時間確保の取り組みの好事例として下記の 2 点を紹介します。

【欠席連絡のシステム化（電話当番の廃止）】 学校 Web ページの Forms から保護者が欠席等の連絡を入力し、自動的に担任へ連絡がいくシステムを採用している学校では、事務職員の電話・記録・担任への連絡等の作業負担を大幅に減らしました。4 月から 6 月までの欠席・遅刻の連絡件数は 821 件であり、電話対応を 1 件 1 分として換算すると、およそ 13.68 時間の業務削減となります。

【職員朝礼・職員会議のオンライン化（毎朝の時間確保）】 慣例だった参集型での職員朝礼を週 1 回とし、残りの 4 回は M365 Teams による職朝資料の確認としたことで、朝の 20 分の時間を確保しています。また職員会議、各種委員会等もオンライン会議で実施することにより、会議場所までの移動時間や会議資料のペーパーレス化による印刷業務の負担軽減が進みました。

IT 教育班では、学校現場の日常的な活用や業務改善を目的とした研修や講座に取り組んでいます。また担当者との連絡をメールから Teams への移行、Power Apps や Power Automate を活用した業務自動化にも取り組んでいます。学校として ICT を活用し、M365 を組織のコミュニケーション・プラットフォームとすることで、教職員の情報スキルの向上につながります。各学校においても、職員一人一人の創造的な意見を取り入れ、業務改善に取り組んでみてはどうでしょうか？

令和3年度 前期・離島長期研修研究報告会

令和3年度前期・離島長期研修研究報告会が9月8(水)・9日(木)の日程で、本総合教育センターで開催されました。前期長期研修員15名、離島長期研修員5名の計20名が各自のテーマに基づき、教育課題解決に向けた意欲的で熱意の伝わる報告を行いました。今回は、コロナ禍ということもあり、ライブ配信による報告会を行い、多くの視聴がありました。また、関係各位の激励を受け、研修員一同、6ヶ月の研究成果を十分に報告することができました。



「教職人生の転機となった長期研修」

教科研修班 沖縄市立コザ中学校 教諭 水上 亮



4月にスタートした令和3年度前期・離島長期研修も無事に終了し、研修員一同、実り多き半年間を送ることができました。自分自身の何かを変えたい、学校の課題を解決したいという思いをもって集まってきた各校種の先生方と苦楽を共にし、センターでの様々な研修を通して新しい知見を得ながら、一回りも二回りも教師として成長できたと感じています。私たちの課題解決のために、親身になりご指導くださった所長、班長、主事、教育センター全職員に対し、心より感謝申し上げます。これからの沖縄の未来を担う児童・生徒のため、ここで学んだ成果をそれぞれの職場で還元し、今後も自己研鑽に努めてまいります。

毎日が学びの日々(^_^)

理科研修班 北谷町立浜川小学校 教諭 幸地 佑太



4月、不安を抱えたままセンターでの生活が始まりました。始まって、一番に感じたのが「学ぶって楽しい!」ということです。昼食時の会話でも「天王星に住んだらどうなると思う?」という話から惑星のことが学べ、一歩外に出ると「この花知っている?この花はね〜」など何気なく見ていた植物にも名前があることに気づかされました。班長・主任・主事や研修生のお陰で、今私は学べる環境にあるこのセンターがすごく楽しいです。研修もわずかですが、センターで得た「学ぶ楽しさ」を子供たちや現場の先生方にも伝えていきたいです。すべては子供たちの笑顔に繋がるように!

研修が大きな財産に

特別支援教育班 県立美咲特別支援学校 教諭 與那城 哲



この半年間の研修を通して、特別支援教育についてじっくり考え、国や県の動向を知り、最新の情報を得ることで自身のスキルをアップさせるという大変貴重な時間を過ごすことができました。研究においては、特別支援教育班班長をはじめ主任・主事からの多大な指導・助言を頂き「社会的背景」「根拠」「定義」「生徒の変容」について時間をかけて深く考えることができました。このような自己研鑽に励むことのできた貴重な半年間は私の心の糧となり大きな財産となりました。心から感謝申し上げます。今回の研修で学んだことを今後に活かし、自校に還元していきたいと思ひます。